

林豊廣の錦鯉よろろず相談室

第42回

〜愛鯉家による、愛鯉家のためのコーナー〜

池は錦鯉飼育にとって、なくてはならないもの。今回はその基本を解説していただきました。

基本的な池の構造を教えてください。

—— 本誌『人もいろいろ池もいろいろ』でさまざまな愛鯉家を取材していますが、まさに池の造りは千差万別です。そのなかで林さんが考える基本的な池の構造を教えてください。

林 沈澱槽と濾過槽、そして飼育槽からなる三槽構造が池の基本で、代表的な形は長方形です。さらに湧清水などの強制濾過機を併用するのが一般的ですね。この構造が代表的な池で、水量には関係ありません。

—— 本誌二月号の『Q&A形式』による錦鯉飼育の教本』で紹介している池が最も基本的なものでしょうね。ところで、ほとんどの愛好家はエアレーションを行なっ

ています。

林 飼育水と濾過槽への酸素補給として、曝気用エアポンプを設置している池がほとんどですね。

—— 水深はどのくらいあればいいですか？

林 飼育する鯉の体長により、80cm以上の鯉を飼育する場合、1.5mは必要でしょう。体長の二倍もあれば十分ですが、浮き餌を食べるときに尾が池底に付くようでは、正常な体形が維持できません。

—— 池を造るには使える土地によって形が制限されますが、正方形でも大丈夫でしょうか？

林 長方形のほうがいいでしょう。長い辺があると、鯉が泳ぐ距離も長くなりますからね。

—— バクテリアの住処が濾材なんです。濾材にもさまざまなものがある、どれを選んだらいいか、迷います。

林 バクテリアをいかに多く定着させて、繁殖させるかが濾材選びのポイントです。吊り下げのロールタイプや堆積タイプなど、さまざまな濾材がありますが、池の状態をよく知っているベテラン愛好家やプロの助言を得ることをおすすめします。また、堆積タイプは目詰まりするほど入れ過ぎないようにしましょう。

—— 五月号でも紹介（159ページ）しましたが、濾材が多すぎると、掃除しても汚れが底にたまってしまいませんか？

林 そうです。シャワーで流したとき、汚れが簡単に外へ排出されるくらいの量にしておきましょう。また、有用なバクテリアの多くは好気性なので、通水性をよくして、エアレーションで酸素を与えるのが大事です。

—— エアは鯉だけでなく、バクテリアにも必要なんです。ところで、濾過槽の大きさはどのく

—— 沈澱槽と濾過槽が錦鯉飼育の生命線を握っていると思います。この二つについて、解説をお願いします。

林 沈澱槽の管理のポイントとしては、固形物を早く、そして定期的に排出することです。長く放置しておくと、腐敗してしまいます。

—— 沈澱槽は目に見えるゴミを排出する役割を担っているんですね。濾過槽についてはいかがでしょうか？

林 まずは「濾過」そのものについて考えてみましょう。

—— バクテリアの力を利用して、水をきれいにするんですね。

林 錦鯉業界と言う濾過は、水の汚れを濾材で濾し取るのではなく、濾材に棲みついた浄化バクテリアに池水を浄化させることです。つまり、目に見えない汚れをバクテ

らいがいいでしょうか？

林 沈澱槽と濾過槽を合わせて、池水量の20%は必要でしょう。沈澱槽が5%、濾過槽が15%の割合がいいと思います。

—— 池にはポンプが不可欠ですが、どのような基準で選んだらいいですか？

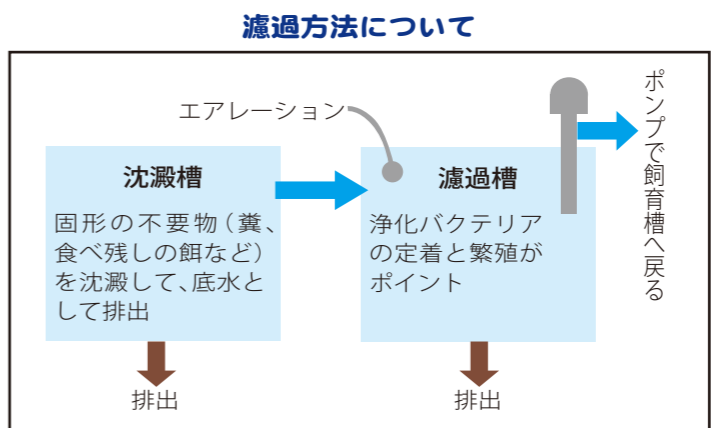
林 池の水量と同じで、池水量が30トンであれば、30トン/hのポンプがいいでしょう。

—— 一時間に一回転させればいいんですね。

林 濾過槽を通過する水が速すぎると、バクテリアの餌が濾材に付着することなく、飼育槽に戻って

しまいます。

—— フミンサンドの代わりに何を



リヤの餌にして水を浄化するので、正しくは浄化と言うべきでしょう。

—— 汚れがバクテリアの餌になるんですか？

林 そうです。コンクリート池で言えば、鯉の糞などがバクテリア